

# きのこ

## 【再度考えたい 地震対策】

令和6年1月1日、残念なことに能登半島を中心とする大きな地震が発生し、県内でも多くのきのこ生産施設で、栽培施設内で積み重ねられたビン等が落下、倒壊する被害が発生してしまいました。東日本大震災でも同様の被害が発生していました。ここで再度地震に対するリスクを検討し、以下のような事前の対策をお願いします。

### ① 培養物の倒壊防止

- a 可能な限りコンテナの積み上げ段数は低くするとともに、最上段のコンテナ間を連結する鉄製フレームを設置して固定する。
- b パレット上に積み上げられたコンテナ全体を荷物締め付け用のラッシングベルトでしっかり固定する。
- c 免震対策として有効な「台車積み上げ方式」の培養に切り替える。

### ② 生育室での倒壊防止

棚倒壊のリスクを検討し、必要に応じて補強を行う。また、加湿器や冷凍機等も確認し、落下しないよう補強する。

棚の支持能力を超えた積み上げは、棚の倒壊を招くので適正量の積み上げとする。特に、棚上段への過度な積み上げは棚の倒壊を招きやすいので注意する。

### ③ 燃油配管等の耐震対策

燃油配管が破損した場合、油漏れによる河川汚染を招く恐れがあるので安全性を確認し、必要に応じて補強を行う。

## 【害菌等の対策】

害菌の被害が出荷最盛期に発生してしまうと経営的に大きなダメージを被ります。害菌被害の原因の多くは、管理方法や施設の特有の問題によるものです。特に、管理や作業工程の変更等にともない、被害が目立つ場合もあります。日常作業の中で対策を継続的に実施することで効果が表れてきます。

害菌はほとんど全ての施設に生息しており、エノキタケの生育期では、汚染した巻紙によって感染することも知られており、湿度が高く結露しやすい環境や、殺菌不足により菌糸の活力が弱まった場合に害菌感染が助長されます。施設内に害菌が存在することを前提に、加湿過多を避け、菌かき機や加湿器、巻紙の除菌を励行していくことが重要です。

**[菌掻き機]** 細菌は水滴やチリに付着して空中伝染する他、菌掻き機により接触伝染します。

- ◆菌掻き時～芽出し前は無防備状態（菌床面に直接触れる作業であることを再確認）
- ◆菌掻き機の爪やブラシはキレイ？作業後も菌床面に雑菌がつくリスクはありませんか？

**【掻き出し】** 掻き出し作業時の粉塵とともに害菌が飛散します。空気の流れを確認して栽培室等の施設に汚染された空気が流入しないように対策をしましょう。

- ◆作業中に汚れた空気が施設内に入りませんか？栽培室内へ入る空気は汚れていませんか？
- ◆掻き出し作業をした服装で栽培室に入っていないですか？

**【踏み消毒槽】** 人も害菌を広げている（塩素系剤は臭わなければ効果なし）

- ◆室内では専用の作業靴を使用し、作業着も適宜交換します。
- ◆消毒液の交換は最低でも室内では2日に1回、施設の入口では毎日行いましょう。

**【作業場や通路】** ゴミを除去⇒（水洗い⇒**乾燥**）⇒除菌（次亜塩素酸ナトリウム、エタノール）

- ◆ゴミがあつたり、濡れたりしていると除菌効果は極めて低くなるので注意してください。
- ◆壁にある穴から害虫や害獣が侵入する恐れもありますので、発見次第、穴を塞ぎましょう。